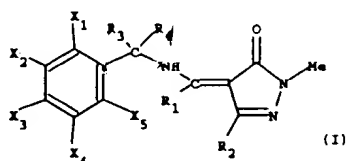


96-055957/06 C02 SUMO 94.05.24
 SUMITOMO CHEM CO LTD *JP 07316138-A
 94.05.24 94JP-109547 (95.12.05) C07D 231/20, A01N 43/56
 New pyrazolone derivs. - useful as selective herbicides
 C96-018241

C(7-D8, 14-V1) .2

Pyrazolone derivs. of formula (I) are new:

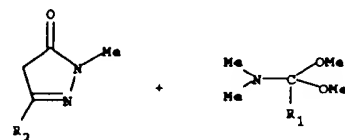


R₁ = H or 1-3C alkyl;
 R₂ = 1-3C alkyl or 1-3C haloalkyl;
 R₃, R₄ = H or CH₃;
 X₁ - X₅ = H, halo, 1-6C alkyl, 1-6C haloalkyl, 1-6C alkoxy or 1-6C haloalkoxy.

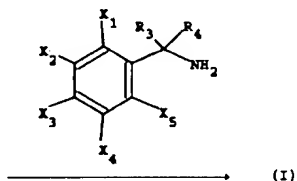
USE

(I) are useful as herbicides with excellent selectivity between crops and weeds.

PREPARATION



JP 07316138-A +



EXAMPLE

1.5 g 1,3-dimethyl-2-pyrazolin-5-one and 1.6 g 1,1-dimethoxy-2-amino-2-(1,3,5-trisubstituted-phenyl)ethane were added to 30 ml tetrahydrofuran and stirred at room temp. for 24 hrs. To this was added 2.6 g 3,4-dichlorobenzylamine and stirred at room temp. for 24 hrs.

The soln. was conc. and purified to give 1.3 g (I; R₁, R₃, R₄, X₁, X₄, X₅ = H; R₂ = CH₃; X₂, X₃ = Cl), m. pt. 157 - 158 °C.(LP)
 (7pp078DwgNo.0/0)

JP 07316138-A

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-316138

(43) 公開日 平成7年(1995)12月5日

(51) Int. Cl.

識別記号

序内整理番号

F I

技術表示箇所

C07D231/20

7

A01N 43/56

F

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全7頁)

(21) 出願番号

特願平6-109547

(71) 出願人 000002093

住友化学工業株式会社

大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号

(22) 出願日

平成6年(1994)5月24日

(72) 発明者 泉 恵一

兵庫県宝塚市高司4丁目2番1号 住友化学工業株式会社内

(72) 発明者 尾崎 拓彦

千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目7番1号 住友化学工業株式会社内

(72) 発明者 用貝 広幸

兵庫県加西市岸呂町塩ノ山636の2 住友化学工業株式会社内

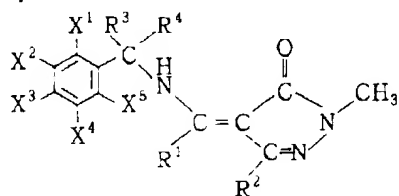
(74) 代理人 弁理士 久保山 隆 (外1名)

(54) 【発明の名称】 ヒラゾロン誘導体およびそれを有効成分とする除草剤

(57) 【要約】

【構成】 一般式 化1

【化1】



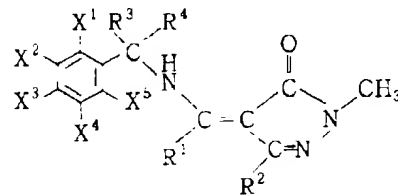
〔式中、R¹ は水素原子等を表わし、R² はC₁～C₄アルキル基等を表わし、R³ およびR⁴ は水素原子等を表わし、X¹、X²、X³、X⁴ およびX⁵ は水素原子等を表わす。〕で示されるヒラゾロン誘導体およびそれを有効成分として含有することを特徴とする除草剤。

【効果】 優れた除草効力を示す。

【特許請求の範囲】

【請求項1】一般式 化1

【化1】



【式中、R¹ は水素原子またはC₁～C₄アルキル基を表わし、R² はC₁～C₄アルキル基またはC₁～C₄ハロアルキル基を表わし、R およびR¹ は同一または相異なり、水素原子またはメチル基を表わし、X¹、X²、X³、X⁴ およびX⁵ は同一または相異なり、水素原子、ハロゲン原子、C₁～C₄アルキル基、C₁～C₄ハロアルキル基、C₁～C₄アルコキシ基またはC₁～C₄ハロアルコキシ基を表わす。】で示されるピラゾロン誘導体。

【請求項2】請求項1に記載のピラゾロン誘導体を有効成分として含有することを特徴とする除草剤。

【発明の詳細な説明】

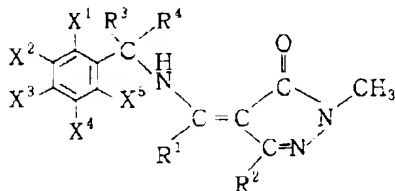
【0001】

【発明の目的】本発明は、ピラゾロン誘導体およびそれを有効成分とする除草剤に関する。

【発明の構成】本発明者らは、優れた除草剤を見い出すべく鋭意検討した結果、下記一般式化1で示されるピラゾロン誘導体が優れた除草効力を有することを見出し、本発明に至った。

【0002】即ち、本発明は、一般式 化2

【化2】

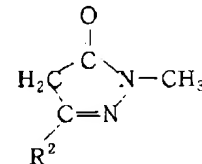


【式中、R¹ は水素原子またはC₁～C₄アルキル基（例えば、メチル基、エチル基、イソプロピル基等）を表わし、R² はC₁～C₄アルキル基（例えば、メチル基、エチル基、イソプロピル基等）またはC₁～C₄ハロアルキル基（例えば、トリフルオロメチル基、トリクロロメチル基、ペンタフルオロエチル基等）を表わし、R およびR¹ は同一または相異なり、水素原子またはメチル基を表わし、X¹、X²、X³、X⁴ およびX⁵ は同一または相異なり、水素原子、ハロゲン原子（フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子等）、C₁～C₄アルキル基（例えば、メチル基、エチル基、イソプロピル基等）、C₁～C₄ハロアルキル基（例えば、トリフルオロメチル基等）、C₁～C₄アルコキシ基（例えば、メトキシ基、エトキシ基等）またはC₁～C₄ハ

ロアルコキシ基（例えば、トリフルオロメトキシ基、ペンタフルオロエトキシ基等）を表わす。】で示されるピラゾロン誘導体およびそれを有効成分として含有することを特徴とする除草剤を提供するものである。本発明化合物には炭素-炭素二重結合に由来する幾何異性体（E、Z）が存在するが、本発明にはこれらの異性体およびその混合物が含まれる。

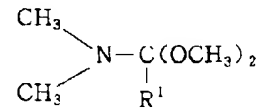
【0003】次に、本発明化合物の製造法について詳しく説明する。本発明化合物は、例えば、一般式 化3

【化3】



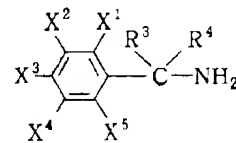
【式中、R¹ は前記と同じ意味を表わす。】で示されるピラゾロン化合物と、一般式 化4

【化4】



【式中、R¹ は前記と同じ意味を表わす。】で示されるアセタール誘導体とを反応させ、引き続きその生成物と、一般式 化5

【化5】



【式中、X¹、X²、X³、X⁴、X⁵ およびR¹ は前記と同じ意味を表わす。】で示されるアミン誘導体とを反応させることによって製造することができる。

【0004】この反応は、通常、無溶媒中または溶媒中で行い、反応温度の範囲は、通常、0～200℃、反応時間の範囲は、通常、1～50時間であり、反応に供される試剤の量は、一般式 化3のピラゾロン化合物1モルに対して、一般式 化4のアセタール誘導体は、通常、1～10モルの割合、一般式 化5のアミン誘導体は、通常、1～10モルの割合である。用いられる溶媒としては、例えば、ヘキサン、ヘプタン、リグロベン、石油エーテル等の脂肪族炭化水素類、ベンゼン、エーレン、キシレン等の芳香族炭化水素類、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼン等のハロゲン化炭化水素類、ジエチルエーテル、シイソプロピルエーテル、ジオキサン、テトラヒドロフラン、ジエチレングリコールジメチルエーテル等のエーテル類、メタノール、エタノール、イソプロパノール

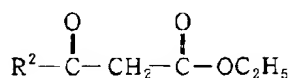
ル、γ-ブタノール、オクタノール、シクロヘキサノール、メチルセロソルブ、ジエチレングリコール、グリセリン等のアルコール類、蟻酸エチル、酢酸エチル、酢酸ブチル、炭酸ジエチル等のエステル類、ニトロエタン、ニトロベンゼン等のニトロ化合物、アセトニトリル、イソプロピロニトリル等のニトリル類、ヒリジン、トリエチルアミン、N、N-ジエチルアミン、トリブチルアミン、N、N-メチルモルホリン等の第三級アミン、ホルムアミド、N、N-ジメチルホルムアミド、アセトアミド等

一般式 化2で示されるピラズロン誘導体

R ¹	R ²	X ¹	X ²	X ³	X ⁴	X ⁵	R ³	R ⁴
H	CF ₃	H	Cl	Cl	Cl	H	H	H
CH ₃	CF ₂ CF ₃	F	H	CF ₃	H	H	H	H
C ₂ H ₅	CCl ₃	H	CH ₃	CH ₃	CH ₃	H	H	H
CH(CH ₃) ₂	CH ₃	H	CF ₃	H	CF ₃	H	H	H
H	CH(CH ₃) ₂	F	H	CF ₃	H	F	H	H
CH ₃	CF ₃	H	Br	Br	H	H	H	H
C ₂ H ₅	CF ₃	H	OC ₂ H ₅	OC ₂ H ₅	H	H	H	H
CH(CH ₃) ₂	CH(CH ₃) ₂	H	H	I	H	H	H	H
H	C ₂ H ₅	H	H	OCF ₃	H	H	H	H
CH ₃	CH ₃	H	H	OCF ₃ CF ₃	H	H	H	H
C ₂ H ₅	CF ₃	F	F	F	F	F	H	H
CH(CH ₃) ₂	CF ₃	H	CH ₃	Br	CH ₃	H	H	H
H	CF ₃	H	Cl	Cl	H	H	CH ₃	H
H	CH ₃	H	Cl	Cl	H	H	CH ₃	CH ₃

【0006】本発明化合物を製造する際の原料化合物である一般式 化3で示されるピラズロン化合物は、例えば、一般式 化6

【化6】



【式中、R²は前記と同じ意味を表わす。】で示されるβ-ケトカルボン酸エステル誘導体とメチルヒドラジンとを反応させることによって製造することができる。この反応は、通常、無溶媒または溶媒中で行い、反応温度の範囲は、通常、0～200℃、反応時間の範囲は、通常、1～50時間であり、反応に供される試剤の量は、一般式 化6のβ-ケトカルボン酸エステル誘導体1モルに対してメチルヒドラジンは、通常、1～10モルの割合である。用いられる溶媒としては、例えば、ヘキサ

ンの酸アミド、ジメチルスルホキシド、スルホラン等の硫黄化合物あるいは、それらの混合物があげられる。反応終了後の反応液は、有機溶媒抽出および濃縮等の通常の後処理を行い、必要ならば、クロマトグラフィー、蒸留、再結晶等の操作によってさらに精製することにより、目的の本発明化合物を得ることができる。

【0005】次に本発明化合物の例を表1に示す

【表1】

ノールジメチルエーテル等のエーテル類、蟻酸、酢酸、オレイン酸等の脂肪酸、メタノール、エタノール、イソプロパノール、γ-ブタノール、オクタノール、シクロヘキサノール、メチルセロソルブ、ジエチレングリコール、グリセリン等のアルコール類、ニトロエタン、ニトロベンゼン等のニトロ化合物、ヒリジン、トリエチルアミン、N、N-ジエチルアミン、トリブチルアミン、N、N-メチルモルホリン等の第三級アミン、ホルムアミド、N、N-ジメチルホルムアミド、アセトアミド等の酸アミド、ジメチルスルホキシド、スルホラン等の硫黄化合物等あるいは、それらの混合物があげられる。反応終了後の反応液は、有機溶媒抽出および濃縮等の通常の後処理を行い、必要ならば、クロマトグラフィー、蒸留、再結晶等の操作によってさらに精製することにより、一般式 化6のピラズロン化合物を得ることができる。

【0007】本発明化合物は、優れた除草効力を有し、かつあるものは作物・雑草間に優れた選択性を示す。すなわち本発明化合物は、畑地の茎葉処理において、次に挙げられる問題となる種々の雑草に対して除草効力を有する

タデ科雑草

ソバカズラ (*Polygonum convolvulus*)、ササエタデ (*Polygonum lapathifolium*)、アメリカササエタデ (*Polygonum pennsylvanicum*)、ハルタデ (*Polygonum persicaria*)、ナガバギシギシ (*Rumex crispus*)、エゾノギシギシ (*Rumex obtusifolius*)、イタドリ (*Polygonum cuspidatum*)

スズリヒユ科雑草

スズリヒユ (*Portulaca oleracea*)

スターシコ科雑草

ハコバ (*Stellaria media*)

アカザ科雑草

シロザ (*Chenopodium album*)、ホウキギ (*Kochia scoparia*)

ヒユ科雑草

アオダイトウ (*Amaranthus retroflexus*)、ホナガアサゲイトウ (*Amaranthus hybridus*)

アブラナ科雑草

ラビネアブラナ (*Raphanus raphanistrum*)、ノハナガラシ (*Sinapis arvensis*)、ナズナ (*Capsella bursa-pastoris*)

サメ科雑草

アメリカサメ (*Sesbania exaltata*)、エビスグサ (*Cassia obtusifolia*)、フクロダバガーウィード

(*Desmodium illinoense*)、シロツメクサ (*Trifolium repens*)

アオイ科雑草

イナビ (*Abutilon theophrasti*)、アメリカキンゴジカ (*Sida spinosa*)

アミレ科雑草

ジョウネアミレ (*Viola arvensis*)、ワイルドバンジー (*Viola tricolor*)

アカネ科雑草

ヤエムグラ (*Galium aparine*)

ヒルガオ科雑草

アメリカアサガオ (*Ipomoea hederacea*)、マルバアサガオ (*Ipomoea purpurea*)、マルバアメリカアサガオ (*Ipomoea hederacea* var. *integrifolia*)、マメアサガオ (*Ipomoea lacunosa*)、セイヨウヒルガオ (*Convolvulus arvensis*)

シソ科雑草

ヒメオドリコソウ (*Lamium purpureum*)、ホトケノザ (*Lamium amplexicaule*)

ナス科雑草

シロバナチヨウセンアサガオ (*Datura stramonium*)、イヌオオズキ (*Solanum nigrum*)

ゴマノハグサ科雑草

オオイヌノタリ (*Veronica persica*)、フラスパソウ (*Veronica hederifolia*)

キク科雑草

オナモミ (*Xanthium pennsylvanicum*)、野生ヒマワリ

(*Helianthus annuus*)、イヌウミツレ (*Matricaria perforata*)、コーンマリーゴールド (*Chrysanthemum segetum*)、オロシヤギク (*Matricaria matricarioides*)、アムクサ (*Ambrosia artemisiifolia*)、オオアムクサ (*Ambrosia trifida*)、ヒメムウシヨモギ (*Erigeron canadensis*)、ヨモギ (*Artemisia princeps*)、セイタカアワダチソウ (*Solidago altissima*)

ムコサキ科雑草

リフイナグサ (*Myosotis arvensis*)

10 ガガイモ科雑草

アサトウグサ (*Asclepias syriaca*)

ハルダアサ科雑草

ハルダアサ (*Euphorbia helioscopia*)、オオハシキソウ (*Euphorbia maculata*)

イネ科雑草

イヌビエ (*Echinochloa crus-galli*)、エノコログサ (*Setaria viridis*)、アキノエノコログサ (*Setaria faberii*)、イビシハ (*Digitaria sanguinalis*)、オビシハ (*Eileusine indica*)、スズメノカタビラ (*Poa annua*)

20 アラビコソウ (*Alopecurus myosuroides*)、カラスムギ (*Avena fatua*)、セイバンモロコシ (*Sorghum halepense*)、ヒョウタンクサ (*Sorghum vulgare*)

アユクサ科雑草

アユクサ (*Commelina communis*)

しかも、本発明化合物中のあるものは、トウモロコシ (*Zea mays*)、コムギ (*Triticum aestivum*)、オオムギ (*Hordeum vulgare*)、イネ (*Oryza sativa*)、ソルガム (*Sorghum bicolor*)、ダイズ (*Glycine max*)、ワタ (*Gossypium* spp.)、テンサイ (*Beta vulgaris*)、ピーナツ (*Arachis hypogaea*)、ヒマワリ (*Helianthus annuus*)、ナタネ (*Brassica napus*) 等の主要作物・花卉・蔬菜等の園芸作物に対して問題となるような被害を示さない。

【0008】また、本発明化合物は、水田の湛水処理において、湛に挙げられる問題となる種々の雑草に対して除草効力を有する。

イネ科雑草

タイヌビエ (*Echinochloa oryzicola*)

アキノアサ科雑草

アキノアサ (*Lindernia procumbens*)

ソバキ科雑草

キカシグサ (*Rotala indica*)、ヒメミソハギ (*Ammannia multiflora*)

ゴハコバ科雑草

ゴハコバ (*Elatine triandra*)

アサキ科雑草

アサキ (*Monochoria vaginalis*)

ヒルムシロ科雑草

ヒルムシロ (*Potamogeton distinctus*)

セリ科雑草

セリ (*Isotria medeoloides*)

アザミ科雑草

アザミ (*Achillea millefolium*)

アザミ科雑草

アザミ (*Monochoria vaginalis*)

ヒルムシロ科雑草

ヒルムシロ (*Potamogeton distinctus*)

セリ科雑草

セリ (*Isotria medeoloides*)

セリ (Oenanthe javanica)

しかも、本発明化合物のあるものは、移植水稻または直播水稻に対して問題となるような害害を示さない。さらに、本発明化合物は、樹園地、牧草地、芝生地または林業地あるいはその他の非農耕地に発生する広範囲の雑草を除草できる。

【0009】本発明化合物を除草剤の有効成分として用いる場合は、通常固体担体、液体担体、界面活性剤その他の製剤用補助剤と混合して、乳剤、水和剤、懸濁剤、粒剤、顆粒水和剤等に製剤する。これらの製剤には、有効成分として本発明化合物を重量比で0.2~8.0%、好ましくは1~7.0%含有する。固体担体としては、カオリナクレイ、アークアルシヤイトクレイ、ベンチサイト、酸性白土、ハイロフィライト、タルク、珪藻土、方解石等の鉱物質微粉末、クルミ殻粉等の有機物微粉末、炭素等の水溶性有機物微粉末、硫酸アルミニウム等の無機塩微粉末および合成含窒素酸化珪素の微粉末等が挙げられ、液体担体としては、メチルナフタレン、フェニルエチルエタン、キシレン等のアルキルベンゼン等の芳香族炭化水素類、イソプロパノール、エチレンジグリコール、ジエトキシエタノール等のアルコール類、フタル酸ジアルキルエステル等のエステル類、アセトン、シクロヘキサノン、イソボルネン等のケトン類、マシ油等の鉱物油、大豆油、桐実油等の植物油、ジメチルホルムアミド、N、N-ジメチルホルムアミド、アセトニトリル、N-メチルピロリジン等が挙げられる。乳化、分散、混濁等のために用いられる界面活性剤としては、アルキル硫酸エステル塩、アルキルフルオ、酸塩、アルキルアリアルスルホン酸塩、ジアルキルアルホホホ酸塩、ホリオキシエチレン、アルキルアリアルエーテルリン酸エステル塩等の陰イオン界面活性剤、ホリオキシエチレン、アルキルエーテル、ホリオキシエチレンアルキルアリアルエーテル、ホリオキシエチレンホリオキシプロピル、ジクロクロホリマー、ソルビタン脂肪酸エステル、ホリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル等の非イオン界面活性剤等が挙げられる。その他の製剤用補助剤としては、リグニンスルホン酸塩、アルギン酸塩、ホリオキシアルコール、アラビアガム、CMC (カルボキシメチルセルロース)、PAP (酸性リン酸イソプロピル) 等が挙げられる。本発明化合物は、通常製剤化して雑草の出芽前または出芽後に茎葉処理または湛水処理する。茎葉処理には、植物体の上方からの処理のほか、作

物に付着しないよう雑草に限って処理する局部処理等がある。また、他の除草剤と混合して用いることにより、除草効力の増強が認められる場合がある。さらに、殺虫剤、殺ダニ剤、殺線虫剤、殺菌剤、植物生長調節剤、肥料等と混合して用いることもできる。

【0010】本発明化合物を除草剤の有効成分として用いる場合、その処理量は、気象条件、製剤形態、処理時期、処理方法、対象作物、対象雑草等によっても異なるが、通常1ヘクタール当たり50g~10000g、好ましくは100g~8000gであり、乳剤、水和剤、懸濁剤、顆粒水和剤等は、通常その所定量を1ヘクタール当たり10リットル~1000リットルの(必要ならば展着剤等の補助剤を添加した)水で希釈して処理し、粒剤、あるいは懸濁剤等はなら希釈することなくそのまま処理する。補助剤としては、前記の界面活性剤の他、ホリオキシエチレン樹脂酸 (エステル)、リグニンスルホン酸塩、アジエチン酸塩、ジサチルメタンジスルホン酸塩、クロロオイルコンセンレート (crop oil concentrate)、大豆油、コーン油、桐実油、ヒマシ油等の植物油等が挙げられる。また、本発明化合物は、タケの落葉剤・乾燥剤、ジャガイモ (Solanum tuberosum) の乾燥剤等の収穫補助剤の有効成分として用いることができる。その場合、本発明化合物を、除草剤の有効成分として用いる場合と同様に通常製剤化して、作物の収穫前に、単独または他の収穫補助剤と混合して茎葉処理する。

【0011】

【実施例】以下、本発明を製造例、製剤例および試験例により、さらに詳しく説明するが、本発明はこれらの例に限定されるものではない。まず、本発明化合物の製造例を示す。

製造例1

1、3-ジメチル-2-プロパノール-5-オン 1.5g と 1、1-ジメチル-2-メチルアミン 1.6g とをテトラヒドロフラン 3.0ml に加え、室温で24時間攪拌した。この溶液中に、3、4-ジクロロベンジルアミン 2.6g を加え、室温で24時間攪拌した。この反応溶液の溶媒を減圧除去し、残流をカラムクロマトグラフィーに付し、目的とする化合物 1 (1.3g) を得た。

【0012】次に、本発明化合物のいくつかを化合物番号および物性値と共に表2に示す。

【表2】

10

20

30

40

一般式 化2で示されるピラズロン誘導体

化合物 番号	R ¹	R ²	X ¹	X ²	X ³	X ⁴	X ⁵	R ³	R ⁴	融点 (°C)
1	H	CH ₃	H	Cl	Cl	H	H	H	H	157~158
2	CH ₃	CH ₃	H	Cl	Cl	H	H	H	H	180~181
3	H	CF ₃	H	Cl	Cl	H	H	H	H	101~101.5
4	CH ₃	CF ₃	H	Cl	Cl	H	H	H	H	114.5~116
5	CH ₃	CF ₃	H	H	CF ₃	H	H	H	H	141~142
6	H	CF ₃	H	H	F	H	H	H	H	109~110
7	H	CF ₃	H	H	CF ₃	H	H	H	H	151~152
8	H	C ₂ H ₅	H	Cl	Cl	H	H	H	H	139~140
9	CH ₃	C ₂ H ₅	H	Cl	Cl	H	H	H	H	177~178
10	H	CF ₃	H	H	OCH ₃	H	H	H	H	122~123
11	H	CF ₃	F	H	H	H	H	H	H	135
12	CH ₃	CF ₃	F	H	H	H	H	H	H	126

【0013】次に製剤例を示す。なお、本発明化合物は表2の化合物番号で示す。部は重量部である。

製剤例1

本発明化合物(1)~(12)の各々5.0部、リグニンスルホン酸カルシウム3部、ラウリル硫酸ナトリウム2部および合成含水酸化珪素4.5部をよく粉砕混合して各々の水和剤を得る。

製剤例2

本発明化合物(1)~(12)の各々1.0部、ポリオキシエチレンステリルフェニルエーテル1.4部、ドデシルベンゼンスルホン酸カルシウム6部、キシレン3.5部およびシクロヘキサゴン3.5部をよく混合して各々の乳剤を得る。

製剤例3

本発明化合物(1)~(12)の各々2部、合成含水酸化珪素2部、リグニンスルホン酸カルシウム2部、ペントナイト3.0部およびカオリンクレー6.4部をよく粉砕混合し、水を加えてよく練り合わせた後、造粒乾燥して各々の粒剤を得る。

製剤例4

本発明化合物(1)~(12)の各々2.5部、ポリビニルアルコール1.0%水溶液5.0部、水2.5部を混合し、平均粒

径が5マイクロメートル以下になるまで湿式粉砕して各々の懸濁剤を得る。

【0014】次に、本発明化合物が除草剤の有効成分として有用であることを試験例で示す。なお、本発明化合物は表2の化合物番号で示す。除草効力および薬害の評価は、調査時の供試植物(雑草および作物)の出芽または生育の状態が無処理のそれと比較して全くないしほとんど違いがないものを「0」とし、供試植物が完全枯死または出芽もし「は生育が完全に抑制されているものを「5」として、0~5の6段階に区分し、0、1、2、3、4、5で示す。除草効力の評価「4」および「5」は優れた除草効力を意味し、評価「3」以下は不十分な除草効力を意味する。薬害の評価「0」および「1」は薬害が実用上問題とならないことを意味し、評価「2」以上は薬害が許容されないことを意味する。

試験例1 畑地茎葉処理試験

直径1.0cm、深さ1.0cmの円筒型プラスチックポットに土壌を詰め、アメリカアサガオ、ワイルドラヂイッシュを播種し、温室内で7日間育成した。その後、製剤例2に準じて供試化合物を乳剤にし、その所定量を1ヘクタールあたり1000リットル相当の展着剤を含む水で希釈し、噴霧器で植物体の上方から茎葉部全面に均一に散布した。処理後、19日間温室内で育成し、除草効力を調査した。その結果を表3に示す。

【表3】

供 試 化合物	有効成分 処理量(g/ha)	除 草 効 力	
		アメリカアサガオ	ワイルドラディッシュ
1	2000	4	4
2	2000	5	4
4	2000	5	5
5	2000	5	5

【0015】試験例2 水田湛水処理試験

直径9cm、深さ11cmの円筒型プラスチックポットに土壌を詰め、タイヌビエを播種した。湛水して水田状態にした後、2葉期のイネを移植し、温室内で育成した。5日後に製剤例2に準じて供試化合物を乳剤にし、その所

定量を水で希釈し、1アールあたり50リットルの希釈液を水面に処理した。処理後、19日間温室内で育成し、除草効力および葉害を調査した。その結果を表4に示す。

【表4】

供 試 化合物	有効成分 処理量(g/ha)	葉 害	除 草 効 力
		イ ネ	タイヌビエ
1	4000	0	4
2	4000	0	5
3	4000	0	4
5	4000	1	5
7	4000	0	4
9	4000	0	4

【0016】試験例3 畑地茅葉処理試験

面積25×18cm²、深さ7cmのプラスチックポットに土壌を詰め、ダイズ、トウモロコシ、ワタ、イヌホオズキを播種し、16日間育成した。その後、製剤例2に準じて供試化合物を乳剤にし、その所定量を1ヘクタールあたり1000リットル相当の水で希釈し、噴霧器で植物体

の上方から茎葉部全面に均一に処理した。このとき雑草および作物の生育状況は草種により異なるが、0.5～4葉期で、草丈は5～30cmであった。処理18日後に除草効力および葉害を調査した。その結果を表5に示す。なお、本試験は、全期間を通じて温室内で行った。

【表5】

供 試 化合物	有効成分 処理量(g/ha)	葉 害			除草効力
		ダイズ	ワ タ	トウモロコシ	
4	1000	1	0	0	4
5	2000	1	0	0	5

【0017】

【発明の効果】本発明化合物は優れた除草効力を示す。